



メンバー：平江、大貫、塩塚（報告）

仕事の関係で長らく宇溪会をお休みしていた私（塩塚）は3年ぶりの釣行となった。

深夜12時を越えた時間に魚沼市の道の駅到着。しばらくすると平江さんと大貫さんもほぼ同時に到着。近くの運動公園に移動してから、明日からの釣行の行程を確認しつつ前夜祭が始まった。明日から過酷な釣行が始まるというのに、会話もお酒も前夜祭から弾んで宴もたけなわな3時過ぎに就寝。

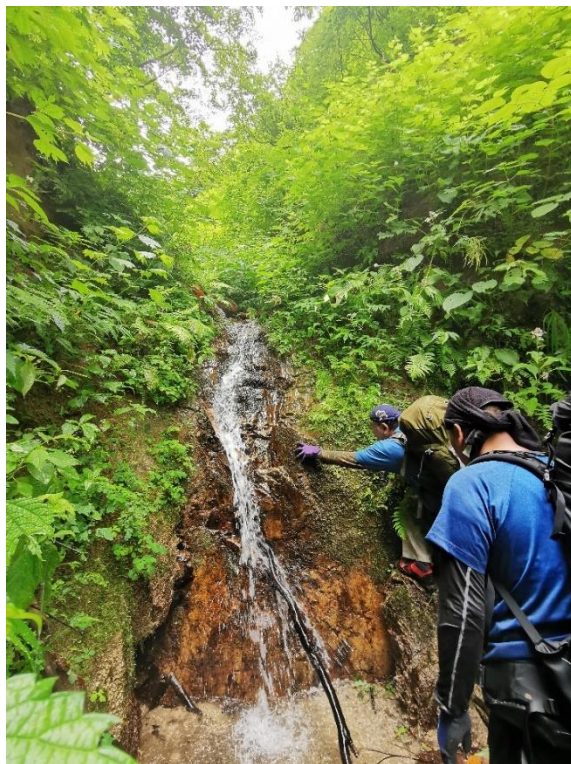
翌朝5時起床、7時に街を出発。



今回の沢は、リーダーの平江さんも入念に下調べをしてもらっていたのだが、出だしから想定内の困難。予定した林道が工事中だったため、別の集落から歩いて尾根を縦走するルートを考えていたのだが、そのルートもとりつきが全く見えなかった。

そんなとき、農作業をしていたおじいちゃんのアドバイスで別の林道の車止めまで進んで、山越えをするルートに決まった。ナイスなおじいちゃんのおかげだが長話も大好きなおじいちゃん、ようやく車止めから歩き出したのは9時半。

林道から小さな沢に入って遡上、途中3mほどの小さな滝を2、3と越えて、沢水がなくなったところから、急斜面の藪漕ぎ開始。



これがまたきつい！！自分に向かって伸びてくる幹、枝、つるをとときにはかいくぐり、ときには乗り越えの連続、気が付くと平江さんははるか前方を上り、見えなくなってしまった。厳しかった藪を何とか越え、ようやく想定していたコルに到着したのが11時半。



先にコルに到着していた平江さん、余裕な顔に見える。

乗越しを過ぎれば後は下るだけ、大分気は楽になったが、そこからがまたさらに長かった。。。尾根から急坂を直下降して最初の沢に入り、とにかく数多い3~4m級の小滝を下って、本流の付け根、ダムバックウォーターに到着。

とにかく水量が多いこと。そこから本流を遡り、目当ての沢はまだハルカカナタ。

二回渡渉を繰り返すも、何十トンはある水塊のうねりを越えるには勇気がいった。



へつりの連続



幻の巨大イワナ！！

かと思えば、ダム上がりの鯉。



悠然と見える本流は
思った以上に流れが強い。



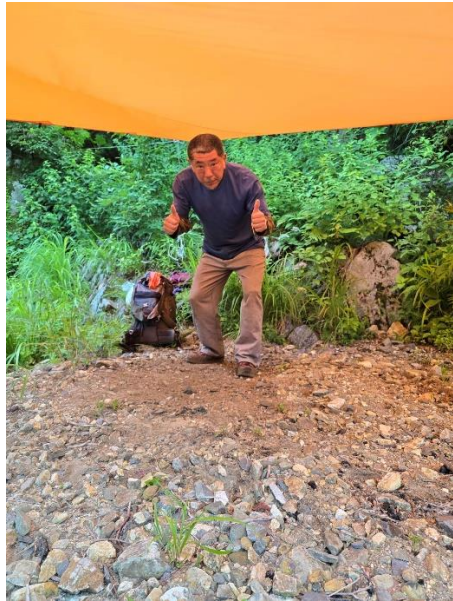
まさか山越えした先で文明の利器に出会う
とは。

途中、カヌーで優雅に下降してくる釣師2人に出会う。この先は激流だからと高巻いて古いゼンマイ道を教えてもらう。地元のひとはカヌーという武器を使ってダムから悠々と本流を越えていくんだなと恐れ入った。

有益な情報を得た一行ではあったが、この先がさらに困難。古いゼンマイ道だったためにルートを見つけ出すのに時間がかかり、しかも道とも獣道とも言えない不確かな急斜面を何とかトラバースしていく。

歩き出しからおよそ7時間、この日はもうタイムアップということで、ちょうどよく絶妙なテン場を見つけて、今日の遡行は終了した。

一日がかりでもまだまだたどり着かない。奥只見の山深さ恐るべし！



乾杯！！

テン場をまっ平にならず平江さん

このテン場は本流の3mほど高いところにある岩棚、平坦で、しかも小沢もある。
タープを張って、薪を集めて、一通り片づけを済ませて、至福の乾杯。
テン場前の本流で大貫さんと私が試しに竿を振るも、魚の気配は一切なし。

さすがの二人も山越えでお疲れのようで、代わる代わるひと休み。

夜も深まり、大貫さんのお好み焼きや私のポテサラを酒の肴に、この日の道程を振り返ったり、これも最高の肴。

そして、本日のメインディッシュは、平江さんの故郷、奄美の郷土料理である“鶏飯”！



お好み焼き



とっておき。



奄美秘伝の鶏飯！！

平江さんは味に不満そうだったが、最高に美味しかった！！

平江さんが丁寧に取った鶏出汁に、大貫さんの錦糸卵、私が小一時間かけて割いた胸肉で、出汁茶漬けのようにして食べる鶏飯が、身体に染みて明日の遡行のエネルギーに替わる。

二日目、しっかり朝ごはんを取っていざ出発。本命の沢まではおよそ2 km。

この日の遡行も巻き道を行くも、前日以上にルート探しに時間を要し、本流に降りるもその水量と水の冷たさに、遡行は困難を極めた。

途中若干の澱みが見られるような場所では竿を出しつつも魚の反応はなし。

気が付くと既に正午を回っており、今回の遡行は本命沢のひとつ手前の沢で断念することになった（この手前の沢の名前を大貫さんと私は覚えられず、間違えて“フルボッコ沢”と呼んでいた）。



今回はここまでの“フルボッコ沢”（正式名ではない）

テン場に戻って 3 時、調べるとこの日の遡行は、あんな大変な思いにもかかわらずわずか 600m。本命沢まではまだ 1 km 以上の道のりだった。

本流で昼食のラーメンを食べながら見えた“フルボッコ沢”は、沢というより数十mの滝の連続、改めて奥只見の自然の奥深さにしびれて、リベンジを誓わずにはいられなかった。

三日目、復路も長時間になるため早朝から動き出し、7時にはテン場を出発。

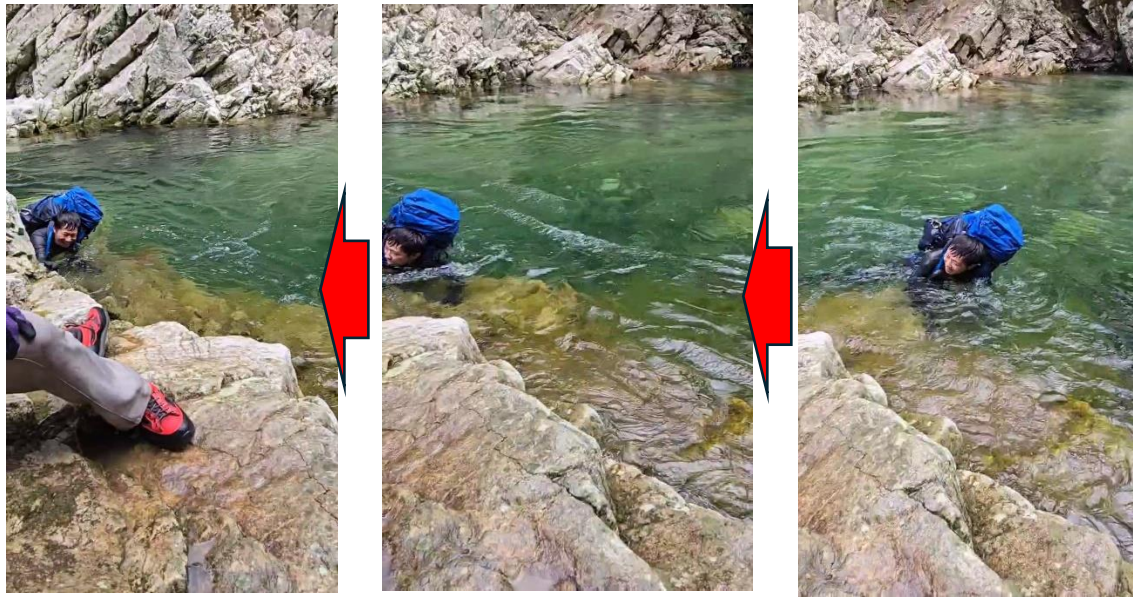
この二日間の本流との付き合いから、帰りは割と余裕を持って本流の付け根、帰路の支流へと到着。



平江さん



続いて大貫さん



本流に飲まれ流される塩塚。爆笑する二人。

この支流では私が竿を出させてもらって、奥只見の元気なイワナにようやく出会えることができた。



ようやく出会えた一匹。魚影は濃い。

当然、下った山は上り返さなくてはならない。下った滝も乗り越えなければならない。わずかなホールドと足場を頼りに、いくつもの滝越え、沢詰め。

必死の思いで、往路と同じコルを乗越してきた。

下りの沢の水泉までがまた悪路、途中大貫さんが5 mほどの高さから谷に転落してあばらを負傷。それを横目に見た私も次の瞬間3 mほど転落。もう20 kgのザックと体重を支える握力も脚力も残っていなかったよう（その後大貫さんも大事はなかったのでひと安心）。

精も根も尽き果て満身創痍で車止めへ到着して、大きな奥只見の自然に抱かれた釣行も終了。

夢の沢はまた次の機会にお預けということで、是非またリベンジしましょうー！

